

## さいたま国際女子マラソン 観戦記

14期 高木伯歌

今年から、今まで横浜で開催されてきた国際女子マラソンが、さいたま市に移行し、初めて開催されることになった。ボランティア要請があり北協として参加することにした。

当日(11月15日)の朝、浦和駅東口に集合。総勢28名(内2名は個人参加)、予定より遅れること40分、割り当てられた緑ブロックに着く。天候は微量な小雨でほとんど影響はない。そこで担当プロデューサーの斎藤氏の指示に従う(因みに彼は群馬の前橋から朝一番の電車でやって来たとのこと…何で群馬人が指示?)。割り当ては緑ブロックC・D07~14まで、仕事はマラソンを走る道路に入る道に円錐のブロックを並べて封鎖する。AM9:00迄には準備完了。我々の受け持ちの地点は往路で15Km、復路で33Kmの地点。

9:10招待、陸連推薦選手スタート。次いで9:40一般女子スタート、更に一般男子が10:10スタート。1Kmを4分弱位として我々の地点を通過するのは10:00頃と予想。

そして予想通り10:00頃に先頭集団6人が、パトカーに先導されてやって来たが、さすがに女子といえ速い、あっという間に通過。かなり遅れて1人、更に遅れてまた1人と、後は続々と通過。沿道に並んだ大勢の人々から「がんばれ」の声援が、通過する選手に飛ぶ。

ボランティアといっても、役目を務めてしまえばやることは無く、ランナーが通過するのを眺めているだけで、自分の受け持ち場所は給水するのでも無いので、只々一般女子・男子合わせて約9千人弱を見送りしているだけ。たまに向かい側の道に行きたいのだが道路を渡れないか、という困った人が尋ねてくる。これが何とも楽しい。道路は絶対に渡れない。そこで丁寧に教えてあげると納得する人もいれば、困った表情で頷く人もいて、このマラソンが意外に知られていないことがわかったりして、変なところで嬉しかった。

私たち4人の分担地域は、スーパーの「コモディイイダ」の前。トイレも自由、店もガラガラ、店長も出てきてお手上げ状態とこぼすほど。最後の一般男子のランナーが通過してから早めのランチ、11時ごろにトップの選手が戻って来る。しかし復路は反対側の道路で、エチオピア人と思われるランナーが独走で通過。次いで一人、3番手に日本人(後で吉田選手とわかる)が続き、5人目に渋井選手が通過。その後は、午前と同じ。男女が入り乱れて?続々と通過する。この時間帯が長い。プロデューサーの斎藤氏からスタート4時間以内に着かなければ、最終バスがピックアップしていくとの伝達がある。4時間は短すぎるよ、一般選手がかわいそう。そして早々と13:50頃に解散の指令がでる。

観戦記と言っても、正直何も書くことなんて何もない。往路は走るランナーの姿、復路は疲れた後方のランナー達が給水、給食している姿を、或いは歩きながら走っている姿を眺めているだけだった。走っているランナーと同じくらい疲れたというのが正直な感想です。来年以降、どうするか不明ですが、新聞で清水市長の談話があり「定員や種目を増やし、制限時間を延長したい」とのコメント。大変だ～

最後に、優勝した“ママさんランナー”アツエダ・バイサ(エチオピア)に祝福。素晴らしい走りでした。素人の私でもその走りは、他を圧倒していたのがわかる位だったからです。